

住宅着工は減少、自動車は販売が増加

橋本健一郎氏レポート①

■国際概況

五月前半は、トランプ大統領が米中通商協議について決裂を否定したほか、今後非常にうまく行くとの見方を示したことで米中通商協議の行方について楽観的な見方が強まったこと、四月の米ADP民間雇用者数は二七・五万人増で予想を上回ったこと一などのプラス材料もあったが、米中通商交渉で中国側が姿勢を後退させた、との報告からトランプ米大統領が激怒、二、〇〇〇億ドル相当の中国製品に課す関税を一〇%から二五%に引き上げると表明(十日)。非関税の三二五億ドルの製品についても二五%の関税を課す可能性も示唆し、嫌気しLME銅相場はDOWN、五月十五日時点で六、〇〇七ドル(セツル)と月初価格より四三五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半はトランプ大統領が米中貿易交渉について「(中国政府が)多くの企業が中国から出て行くのを喜ぶとは思えない」と述べ、中国の譲歩で早期に妥結すると主張した一などのプラス材料もあったが、中国共産党機関紙・人民日報は、強い調子で相次ぐ制裁関税などで譲歩を迫る米国に対し、レアアースの輸出制限によって報復する構えを示唆し、ファアウェイは二十九日、米政府が国防法に基づき同者の米事業を規制する措置を取ったことに関し、同法は米国の憲法に違反するとして米政府を提訴した一を嫌気しLME銅相場はDOWN、六月四日現在、後半スタート価格から二〇六ドル安の五、七九六ドル。銅建値は三万四安の六七万円スタート。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・八五→一一・〇六二(円)。

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、三月の自動車生産台数は前年比四・二%減の九〇万五九三台であった。

輸出(四月)は四二万二、六四六台で前年同月比二・二%減。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・八%増の二四万七、三三八台。

◆新設住宅着工件数推移

平成三十一年四月の住宅着工戸数は七万九、三八九戸で、前年同月比で五・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九三・二万戸(前月比五・八%減)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二四・八%減の三万三、四四八t、スクラップが一・八・八%増の三万九、五九六t。

輸入

輸入は電気銅が前年比一三九・七%増の四、一〇三t、スクラップが三五・六%増の一万四、二一〇t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七%減の六万四、九六〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比五・二%増の五万九、六〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、三月の自動車生産台数は前年比四・二%減の九〇万五九三台であった。

輸出(四月)は四二万二、六四六台で前年同月比二・二%減。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・八%増の二四万七、三三八台。

このうち、乗用車は五・二%増、貨物二%増、バス五・八%増。

【住宅】

・平成三十一年四月の住宅着工戸数は七万九、三八九戸で、前年同月比で五・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九三・二万戸(前月比五・八%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で五月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家は増、貸家及び分譲住宅は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

LMC銅・米中貿易戦争、米大統領の訪英の動向が左右か 為替予想 四面より続く

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比七％減の六万四、九六〇tと五カ月連続減少。伸銅品の一四品種のうち、前年同月比プラスは三品種のみ、伸銅品全体的に需要に勢いがなくなってきた。

このうち、内需は五万四、七二二tで五・一％減と四カ月連続マイナス、輸出は一万一八八tで一五・九％減と六カ月連続マイナス。

品種別では、銅条が二万二、六一〇tで五・三％減と三カ月連続マイナス、黄銅棒が一万五、一八二tで六・七％減と四カ月連続マイナス。

【電線】

前年比五・二％増の五万九、六〇〇t。

このうち、国内が五・九％増、輸出が一八・六％減。

【輸出】

銅輸出は、電気銅が二四・八％減の三万三、四四八t、銅スクラップが一八・八％減の三万九、五九六t。

【輸入】

輸入は電気銅が一三九・七％増の四、一〇三t、スクラップが三五・六％増の一万四、二〇t。

【見通し】

・自動車は生産が四・一％減。国内販売台数が前年比四・八％増。

生産は再びマイナス。生産はマイナスだが販売はプラスであり、今後注視。

・伸銅品生産は前年比七％減の六万四、九六〇tと、五カ月連続減少。今後マイナスが続くか注視。

・電線出荷は前年比五・二％増の五万九、六〇〇t。

このうち、国内が五・九％増、輸出が一八・六％減。

・銅輸出は製造業の内需停滞及び輸入品の割安感から国内ものが荷余りし、輸出が増加。

・銅輸入は割安感から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は価格の急落や大型一〇連休前の手仕舞い売り、稼働日低下による発生減から少ないのではないか。

需要面に関しては、足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

米中貿易戦争による世界景気後退懸念からメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、トランプ米大統領の訪英の動向に左右される。

米中貿易に関しては予想外に過熱の一途を辿っているが、六月末のG20で一旦休戦になる事を期待したい。

トランプ米大統領の訪英に関しては次期首相候補のジョンソン氏との直接会談も模索するとみられる。実現すれば、ジョンソン氏には最も重要な同盟国のトップとの緊密な関係を早くもアピールできるはずだが・・・

これらを踏まえた六月の銅価格は五、五〇〇〜六、〇〇〇ドル（セツル）との予想。

ドル円は一〇五円〜一一〇円（TTM）台を予測。

銅建値に関しては六二〇〜七〇〇円程度と予測している。

今年の世界成長見通し、下方修正

米中貿易摩擦などで一銀予測

世界銀行は四日、二〇一九年の世界の成長率見通しを二・六％と、一月時点の予想から〇・三ポイント引き下げた。米中の貿易摩擦などに伴う先行き不透明感から輸出や投資が低迷し、一六年以来の低さにとどまる。「リスクは下振れ方向に傾いている」と警告した。

二〇年も〇・一ポイント下げ二・七％とした。八、九日に福岡市で開かれる二〇カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議に報告する。

マルパス世銀総裁は記者団に対し「力強い経済成長は貧困低減と生活水準の向上に不可欠だ」と強調。成長の障害となる課題を解決する重要性を訴えた。

日本は一九年を〇・八％と〇・一ポイント下方修正。一〇月の消費税率引き上げと中国向け輸出の落ち込みを考慮した。二〇年は〇・七％へと緩やかに鈍化する見込み。

米国は一九年を二・五％、二〇年を一・七％にいずれも据え置き。連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ休止で緩和的な金融環境が続き、貿易摩擦の影響が相殺されると分析した。ただ、「短期的にはリセッション（景気後退）に陥る公算は小さい」ものの、貿易問題の悪化で可能性は高まるとした。

ユーロ圏は中国向け輸出の減少、ドイツなど主要国の低迷で一九年を〇・四ポイント引き下げ、一・二％とした。中国は景気対策により「成長が安定しようだ」として、一九年は六・二％に据え置いた。ただ貿易摩擦の激化を見込み、二〇年を六・一％に下方修正した。